



看護理工学会
The Society for Nursing Science and
Engineering

真田 弘美 先生・土肥 健純 先生
感謝の会



日 時：2019年11月16日（土）19:00～
場 所：銀座アスター お茶の水賓館



看護理工学会
The Society for Nursing Science and Engineering

発起人挨拶



本日、看護理工学会・第3期理事会ならびに第4期理事会役員の皆様にご参集いただき、看護理工学会の設立と発展にご貢献されました理事長・真田弘美先生、副理事長・土肥健純先生に感謝する会を開催できますこと、非常に光栄に存じます。

看護理工学会は、日本が直面する超高齢社会に生じる問題を見据え、それを解決するための新しいイノベーションを起こすべく2013年10月4日に設立されました。この設立に至るまでには、2012年1月、6月の看護理工学懇話会の開催、11月の看護理工学会キックオフシンポジウム開催、2013年2月、8月の設立準備委員会がありました。このプロセスを振り返りますと、領域横断的な新しい学問分野である看護理工学が、慎重に創り上げられたことがひしひしと伝わって参ります。そして看護理工学会の設立は真田弘美先生、土肥健純先生の学問に対する高邁な信念、卓越したリーダーシップならびにお互いの学問に対する尊敬と期待があったからこそ可能であり、かつ今日まで順調に発展したと実感しています。ここに理事長・真田弘美先生、副理事長・土肥健純先生に敬意を表します。また、両先生のご指導の下、新しい仲間に出会い、同じ目標に向かい、試行錯誤しながら様々な事業に携わる機会をいただきましたことに、心から御礼申し上げます。

本日は短い時間ではありますが、皆様とともに理事長・真田弘美先生、副理事長・土肥健純先生の学会設立・発展へのご功績を讃え、感謝する会にしたいと思います。

2019年11月16日
真田弘美先生、土肥健純先生 感謝の会
発起人 須釜淳子

学会の目的

看護理工学会は、看護学、医学、工学・理学とその周辺領域において、それぞれの専門領域を深めつつ互いに協調連携することで、新たな学術分野、ケアに貢献する新技術の創成、それらにもとづく社会への貢献を目的とし、その目的を達するために次の事業を行います。

- 学会・学術集会、講演会、研究会、講習会、展示会、見学会等の開催
- 機関誌、その他刊行物の発行
- 広くケアの発展向上および看護理工学の体系化に関わる調査、研究及びその褒賞
- 学術・技術の発展に向けた人材育成
- 社会貢献に向けた啓蒙普及の推進
- 機器の規格化・標準化ならびに資格制度に関する事業
- 内外の関連学術団体との連絡及び提携
- 前各号に掲げる事業に附帯又は関連する事業

設立趣意

世界的な健康に関する意識の高まり，日本をはじめとする国々の少子化および高齢化にともない，人々の身体の管理・疾病のケアについて，患者と直接長時間密に接する看護の視点を重視した研究と新たな開発の必要性が高まってきています．優れた臨床行動を保ち続けるとともに，エビデンスに基づいた確かな看護の方法論の確立，医師をはじめとする医療者との協調によるチーム医療のシステム化，そして理学・工学の新たな科学的知見に基づく技術の導入が求められています．

そこで，広がりつつある理工学，特に医用理工学・生体工学と看護との関わりを，ケアに関する学術的進展を主眼においた学際的な取り組みとして強化することを目的に新たに「看護理工学会」を立ち上げることといたしました．看護学・医学と理学・工学との連携にたずさわる研究者のみならず，看工連携に関わる医師，看護師，理学療法士をはじめとする医療者・実践者，機器開発に従事する企業研究者・開発者など，さまざまな領域にわたる学会員を広く募ることで，領域横断的なネットワークを形成し，ケア・予防・治療に関する学術的な基盤を構築することが可能となり，新たな理論的手段や臨床的データベースの蓄積がなされ，ひいては日々の健康・生活が質的に大きく向上することにつながると確信をしております．

本学会は，

- 1)看護学，医学，工学・理学の周辺領域において，それぞれの専門領域を深めつつ互いに協調連携することで，新たな学術分野，ケアに貢献する新技術の創成を目指し，
- 2)看護の視点を取り入れた新たな医療機器の基盤技術の研究開発とともにそれを支え広げる社会システム・制度の確立の支援活動を行い，
- 3)地球に住む人々の生活QOL・ウェルビーイングの一層の向上を世界の中で先導的にリードすることに寄与して参ります．

以上のような理念のもと，学術活動を通して，看護学・医学ならびに理学・工学の幅広い連携の展開に邁進することが大きく望まれております．みなさまにおかれましては何卒この趣旨をご理解頂き，ご協力をお願い申し上げます．次第です．

設立時ご挨拶



本学会は2012年から本格的に準備が始まり、下記の合計5回の会合を経て、2013年(平成25年)10月4日に設立されました。土肥健純東京電機大学教授・東京大学名誉教授の強いリーダーシップのもと、多くの工学研究者、理学研究者にも賛同いただき、看護学を冠する学会では類をみないほどに多領域の専門家が所属する学会として、スタートを切ることができました。ここに会員の皆様に改めて御礼申し上げます。

医学、公衆衛生学の進歩により様々な疾病の発症メカニズムが解明され、それに基づき新たな治療法や制御法が開発されたことにより、人類の寿命は飛躍的に伸びました。その一方で、そしてそれに伴い、完全に治癒させることが困難な疾患や障がいを抱えたまま長期間を過ごす人々もまた劇的に増えています。看護学はそのような人々を支援するため、疾患や障がいそのものの管理のみならず、日々の生活を円滑に過ごすためのあらゆる方策を考え、提供し、評価する過程を科学的に遂行する学問です。しかしながら、医学が理学・工学の科学的知見を最大限活用しながら高度に発展し、医療の進歩に貢献している一方、看護学が果たすべき役割は限定的と言わざるを得ないのが現状です。この現状を打開する一つの起爆剤となるのが本学会の設立意義と捉えています。

看護学が理学・工学の専門分野と融合しイノベーションが生み出されることが今求められています。この看護学と理学・工学の融合した学問が生み出す新たな知は、人跡未踏の人口減少と超高齢社会を迎える日本において、世界の指標となることが期待されます。そして本学会は、研究成果の発表の場としてだけでなく、それぞれの深い専門性に裏打ちされた強い協調連携の場として活用され、日本発のイノベーションを発信していくプラットフォームとして機能していくことが強く望まれます。学会員の皆様におかれましては、ぜひ本学会を通じて新たなネットワークを構築し、強靱な学会基盤形成の一翼を担っていただきたく、お願い申し上げます。

2013年

2012年 1月21日：第一回看護理工学懇話会
2012年 6月24日：第二回看護理工学懇話会
2012年11月23日：看護理工学会キックオフシンポジウム
2013年 2月26日：看護理工学会第一回設立準備委員会
2013年 8月11日：看護理工学会第二回設立準備委員会

これまでの主な活動

看護理工学会学術集会

- 第1回:2013年10月5日(土) 東京大学 本郷キャンパス
大会長 森 武俊(東京大学大学院医学系研究科)
- 第2回:2014年10月4日(土)~5日(日) 大阪大学 豊中キャンパス
大会長 山田 憲嗣(大阪大学大学院医学研究科)
- 第3回:2015年10月10日(土)~11日(日) 立命館大学朱雀キャンパス
大会長 森川 茂廣(滋賀医科大学医学部看護学科)
- 第4回:2016年10月9日(日)~10日(月・祝) 岩手県立大学 滝沢キャンパス
大会長 武田 利明(岩手県立大学 看護学部)
- 第5回:2017年10月14日(土)~15日(日) 金沢大学 宝町・鶴間キャンパス
大会長 須釜 淳子(金沢大学 新学術創成研究機構)
- 第6回:2018年10月13日(土)~14日(日) お茶の水女子大学キャンパス
大会長 太田 裕治(お茶の水女子大学)
- 第7回:2019年6月6日(木)~8日(土) 沖縄コンベンションセンター
大会長 川口 孝泰(東京情報大学)

看工ものづくりサロン

- 第1回:2016年7月16日(土)東京大学本郷キャンパス
主催 看護理工学会・日本医工ものづくりコモンズ

ものづくり体験シリーズ

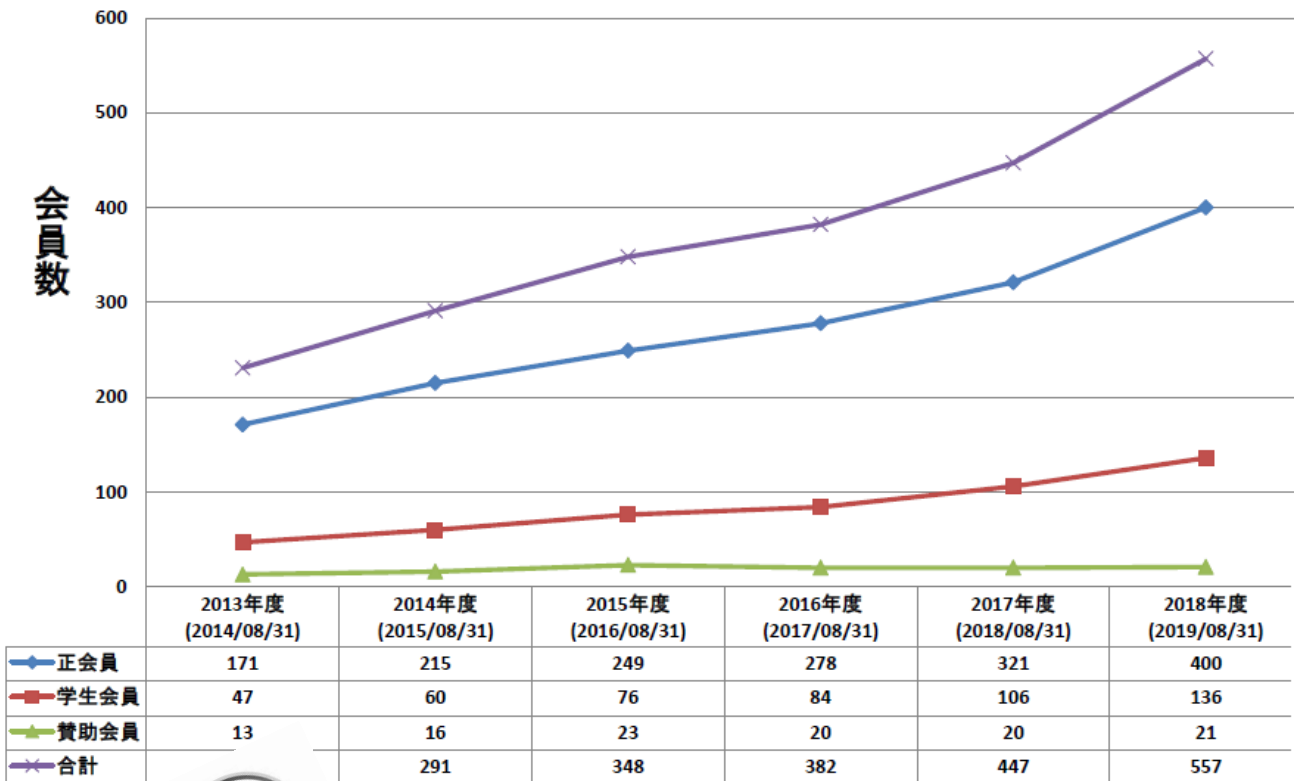
- 第1回ものづくり体験シリーズ(1) ワークショップ:2017年8月19日(土) 東京大学
- 第1回ものづくり体験シリーズ(2) ワークショップ:2017年12月2日(土) 東京大学
- 第1回ものづくり体験シリーズ(3) ワークショップ:2018年4月29日(日祝)・30日(月休)
「1泊2日」 デュープレックスセミナーホテル
- 第2回ものづくり体験シリーズ ワークショップ:2019年4月27日(土)・28日(日)「1泊2日」
リソル生命の森
- 第2回ものづくり体験シリーズ ものづくりアイデア説明会:2019年6月7日(金) 沖縄コンベンションセンター

その他

看護理工学入門セミナー(協賛)

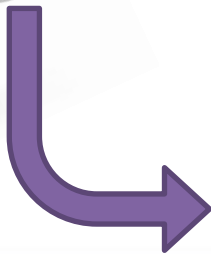
- 第3回:2015年10月31日(土)~11月1日(日) 東京大学
- 第4回:2016年7月2日(土)~3日(日) 東京大学
- 第5回:2017年7月16日(日)・17日(月・祝) 東京大学

会員数の推移



2013年度

231



2019年10月30日現在

正会員 552
 学生会員 27
 賛助会員 20
 合計 **569**



看護理工学会誌1巻1号 巻頭言

看護理工学会 理事長 真田 弘美

高度に専門化，深化した医学や公衆衛生学により，従来に比較して人類の寿命は飛躍的に伸びています。一方，完全に治癒させることが困難な疾患や障がいを抱えたまま長期間を過ごす人々もまた劇的に増えており，看護学の果たす役割はますます大きくなっています。このような困難な課題は，看護学という単一の学問領域だけでは対処不能であり，学際的な取り組みが不可欠といえます。看護理工学会はその先駆けの学際的学会として，看護学を冠する学会では初めて理学および工学の研究者を包含して2013年に発足しました。各専門領域に拘泥しない，超領域的な取り組みが求められる昨今の状況で，国内の様々な場で活躍する研究者が同一のプラットフォームで議論することが重要であり，その要となるのが本学会誌だと確信しております。本学会誌は看護学ならびに医学，理学，工学の研究者が編集委員を務めています。各学問領域の専門性を発揮しつつも，看護理工学という新たな理論的枠組みを醸成するべく，様々な意見を取り入れる精神を中心に据えております。本学会員は新しい学問の息吹を感じるとともに，自身がその息吹をさらに大きく育てて，人類の健康に資する学問へと発展させ

る当事者であることを心に留めていただきたいと願っております。それには積極的な論文投稿と，忌憚のないピアレビューによる意見の交換が不可欠です。それが，看護理工学を実践に導く研究論文を産み，社会に多大なインパクトを与えるものと考えます。また，本学会誌には，社会にオープンにして広く批判を仰ぐことのできる，開かれた媒体とすべきミッションがあります。閉じた社会での深化ではなく，社会の要請に適切かつ迅速に応える存在であるために，あらゆる手段を駆使して情報を集約し，新しい知を創造する基盤となるような学会誌となることを目指しています。具体的には，看護学の現場が抱える問題提起，そのメカニズムの解明と解決のためのシーズの提案，新しい技術の開発と臨床評価など，様々なステージの論文が掲載対象となります。質の高い研究はもとより，粗削りながらも先駆的な取り組みを積極的に掲載する予定です。次世代を担う若手研究者の共通言語が，この学会誌から多数生まれることを期待いたします。看護理工学会誌が，健康福祉科学の世界を変え，そして新世代を創るという理想を抱きながら，ここに創刊号を上梓いたします。

看護理工学会誌2巻1号

巻頭言

看護理工学会 副理事長 土肥 健純

本学会は、2013年10月に東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻の真田弘美教授に理事長を就任いただき設立し、設立年が経過いたしました。また、学会として会誌を年回発行することになりました。今回は第巻の巻頭言を書く機会を頂き光栄に存じます。皆さんご存じのように、病院で使用される医療機器の多くは、医師よりも看護師さん達によって扱われております。私たちが病院に行ったときによく目にするのが、病院の廊下を歩き来る入院患者さんで、その多くの方が点滴量を調節する装置を着けています。この装置は、医師の指示量に合わせて使用しますが、その使用頻度は大変に多く、手術中、患者さんがベッドに寝ているとき、ストレッチャーや車いすで移動する際、さらには患者さんが歩行移動する際も点滴台を患者さん自身が持って歩いている場合もあります。通常医師の指示に基づいて、装置の管理は全て看護師さんが行っています。しかし、医師も看護師さんも装置の使い方は知っていても装置の専門家ではありません。これは自動車の運転と同じで、車の専門家ではなくても車は運転できますが、車に関する最低限の構造や機能は知っていないと、万が一の時の対応や車種による違いにも対応できません。ましてや新しい車の開発は無理です。看護師さんも医療機器の知識をある程度勉強することでより良い看護が行えることを意味します。医療現場で

は、点滴調整装置は数ある医療機器の一つにしかすぎません。今後増大する医療機器を使用しなければならない看護師さんにとって、それら全ての機器に精通するのは不可能に近いと思います。しかし、医療機器の基本を学んでおけば、医療現場で使用される多くの医療機器を自信をもって患者さんのために使用できるようになると思います。そのためには、看護師さん自身が患者さんに直接接する立場に立った医療機器開発を勉強する機会を持つ必要があります。本来医療機器は治療に欠かせないため、多くは医師によって考え出されたものです。その一方、医師が殆ど関与しないが看護師さんが関与するものとして、ベッド、ストレッチャー、あるいは入院患者さんの介護に関与するものなどがあります。そのため、看護師さんが取り扱う機器の場合、看護師さんの立場に立った設計が必要ですが、従来看護師さんは意見を聞かれるだけのわき役が多かったと思います。しかし、治療中の患者さんの状態を最もよく知っているのは看護師さんであり、ある程度臨機応変に対応することも求められます。今後の医療機器の開発には、患者さんに直接接する看護師さんの参加がないと発展は望めません。そのためには、看護師さんが、医師や工学者と協力して開発するための本学会の役割は大きいと言えます。

監事・理事・顧問一覽

(2013～2018年度)

年度	2013	2014	2015	2016	2017	2018
理事長	真田弘美	真田弘美	真田弘美	真田弘美	真田弘美	真田弘美
副理事長	土肥健純	土肥健純	土肥健純	土肥健純	土肥健純	土肥健純
監事						
	樋之津淳子	樋之津淳子	樋之津淳子	樋之津淳子	樋之津淳子	樋之津淳子
	田村俊世	田村俊世	田村俊世	田村俊世	田村俊世	田村俊世
					藤江正克	藤江正克
理事						
	太田裕治	太田裕治	太田裕治	太田裕治	太田裕治	太田裕治
	川口孝泰	川口孝泰	川口孝泰	川口孝泰	生田幸士	生田幸士
	米田隆志	米田隆志	米田隆志	米田隆志	岡山久代	岡山久代
	紺家千津子	紺家千津子	紺家千津子	紺家千津子	紺家千津子	紺家千津子
	坂本二郎	坂本二郎	坂本二郎	坂本二郎	坂本二郎	坂本二郎
	佐久間一郎	佐久間一郎	佐久間一郎	佐久間一郎	齋藤いづみ	齋藤いづみ
	須釜淳子	須釜淳子	須釜淳子	須釜淳子	苗村潔	苗村潔
	武田利明	武田利明	武田利明	武田利明	武田利明	武田利明
	千葉敏雄	千葉敏雄	千葉敏雄	千葉敏雄	千葉敏雄	千葉敏雄
	中島勸	中島勸	中島勸	中島勸	中島勸	中島勸
	藤江正克	藤江正克	藤江正克	藤江正克	長倉俊明	長倉俊明
	森武俊	森武俊	森武俊	森武俊	正宗賢	正宗賢
	森川茂廣	森川茂廣	森川茂廣	森川茂廣	道又元裕	道又元裕
	山田憲嗣	山田憲嗣	山田憲嗣	山田憲嗣	村山陵子	村山陵子
顧問						
	北島政樹	北島政樹	北島政樹	北島政樹	北島政樹	北島政樹
	梶谷文彦	梶谷文彦	梶谷文彦	梶谷文彦	梶谷文彦	梶谷文彦

看護理工学会

真田 弘美 先生・土肥 健純 先生

感謝の会

金沢大学新学術創成研究機構

東京電機大学大学院工学研究科

東京大学大学院医学系研究科

発起人

須釜 淳子

幹事

桑名 健太

村山 陵子